

鶴ヶ島市附属機関会議録

【開催概要】

会議名	令和6年度鶴ヶ島第二小学校 第3回学校運営協議会
日時	令和7年2月4日（火曜日） 11時30分～13時30分
場所	鶴ヶ島第二小学校 会議室
出席委員	市川会長、細貝副会長、久保島委員、清水委員、大竹委員、鹿内委員、町田委員、砥川委員、廣木委員、加藤委員、滝沢委員、岡田委員、（山本小学校長）
欠席委員	田島委員
事務局	森田正登教頭 森田雄樹事務主任
議題	（1） 熟議「学校評価」
配布資料	資料1 令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 資料2 R6学校評価【児童アンケート】まとめ 資料3 R6学校評価【保護者アンケート】まとめ 資料4 R6学校評価【職員アンケート】まとめ 資料5 R6学校評価【地域アンケート】まとめ 資料6 「令和7年度学校運営協議会」委員の委嘱について
公開・非公開	公開
傍聴人数	0人
会議要旨	（1） 配布資料1～5「令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書」等をもとに事務局が説明し、委員からご意見をいただいた。

【議事概要】

<校長>

日頃の活動への感謝を伝えた。

<会長>

支え合いで行う焼き芋や観劇への児童参加について話した。

教育活動視察（30分）

議題（1）学校評価

<事務局 教頭>

配布資料1～5「令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書」等をもとに、事務局が説明

説明要旨

- ・評価をまとめたグラフの色の意味を説明した。また、グラフは「学校教育目標」や「学級経営」などの分野ごとにページを分けて、教職員や児童、保護者、地域それぞれのアンケート結果が載っていることを説明した。
- ・グラフだけでなく、アンケート対象者別にまとめた表も参考にして欲しい。
- ・本日の運営協議会での評価、考察については、鶴ヶ島市に報告する旨の連絡

<事務局 教頭>

配布資料を見ての、お気づきの点や改善点等のご意見を参加者に募った。

<委員>

職員アンケートの結果

- ④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等の ICT 機器を活用して分かりやすく工夫した授業を行っている。
- ⑤私は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。
- ⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。
- ⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。

この4項目について、「あまり思わない」が多い。これらについての先生方の意識が気になるが、どう理解したら良いか尋ねた。

<事務局 教頭>

ICT の事については、管理職から見れば ICT を利用しているが、職員本人が ICT を利用していないと回答している。先生方の「ICT を利用している」と見なすハードルがとても高い。「ICT を利用していない」という職員も今年入った教育用アプリを実際に利用している。自分に厳しい評価をしている。

学校運営協議会・学校応援団の事については、職員自分自身が協力できていないと考えている自己評価になっている。

<校長>

今回からこのアンケートに「私は」という主体が付いた。そのため、自己評価が下がってしまっている。

<委員>

保護者アンケートの結果

「学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。」

これについて、「そう思わない」という回答が5%ある。何を理由としてなのか教えて欲しい。

<校長>

「そう思わない」と回答するのはわずかだが、母数が小さいので5%という結果になってしまう。

そう思わないという家庭が求める対応について、学校は「出来ることはする」「出来ないことは出来ない」と明確にして答えている。そういった点で、学校にはもっとして欲しいと回答者は考えているのではと思う。

<委員>

学習用端末の利用については、先生方だけでなく、保護者からの評価も「あまり思わない」が19%と高い。先生と保護者、お互いの評価が良くないのはどう考えたら良いか。

<校長>

おそらく、10年後を考えると今ほど学習者用PCの利用推進や活用率について今ほど重視しなくなる時代が来ると考えている。

手で書かせることを疎かにして、キーボードを打たせても駄目だと思う。

「あまり思わない」と答えた先生は、書く行動とパソコンのキーボードの行動を半々でやっている方が多い。

逆に「ICTを使っている」と自信をもって答えている方が怖いと考える。鶴二小では手書きのよさを踏まえながら手で書かせている。

この数値だけ見て、「鶴二小はやってない」と捉えるのではなくて、アンケートを答える我々職員や保護者もこれからの一手を考えていかなくてはと考えている。

<委員>

私は、この学校評価を見て、標準的な評価で良い学校だと思う。

<委員>

スクールガードが挨拶しても、子供達から挨拶が返ってこない。

これは、保護者の方ももっと意識しないといけないと思う。本来なら保護者も子供を安全に道路を渡らせないといけないところを、スクールガードがやってくれているという意識が薄いと感じる。

<校長>

保護者に対しても、フォローしながら意識を高めていかなくてはならないという新たな課題を感じている。

<委員>

他の町に行った時、その中学生は目を合わせると中学生の方から挨拶をしてくれた。鶴ヶ島の中学生の中には、挨拶をしたりしなかったりする。大分違うが、これは何故なのか疑問に思った。

<委員>

以前は、保護者対象の給食試食会や講演会等がコミュニティ委員会であったが、今はなくなってしまった。そういったものを行うと、保護者も学校に入ってもらえる。

今は、役員や学校応援団をやっている方は学校内を見ることができるが、そうではない人は学校の今を知り得ないのではと思う。そうすると、親も学校のことに関心がなくなってしまうのではと思う。

<校長>

令和4年度までは、PTAふれあい委員があった。その時にあったヨガ教室に来た人は1人2人で、委員の方が多かった。他の講演会でも参加ははずかだった。

鶴ヶ島市の方針で、土曜日授業を5回行うことが決まっている。保護者からは、土曜日授業の回数が多いのではないかという意見もある。学校で何らかの会を開いたとしても、人が確実に集まるわけではない。コミュニティとして学校に自然に集まっていただけのような形にしたい。

<委員>

「学校教育目標・教育方針」の領域に関して、保護者の回答が、それ以外の回答者と比較すると、肯定的な評価が少ない。この領域についての保護者の肯定的な回答が増えてくると、意識が変わってくるのではと思う。

<校長>

地域の子供や大人たちをイベントで集めるための情報系統や効率の良い方法とかがあるか尋ねた。

<委員>

行政が関わっているとこういう周知の仕方が出来るというのを、学校や保護者の方にも意識してもらう。

「南市民センターを経由した方が広く周知できる」「公共施設も何とかできる」とお考えいただければ、センターも全面的に協力していきたい。

場合によっては、共催という形をとれば何らかのメリットがある場合もある。

<事務局 教頭>

資料6 『「令和7年度学校運営協議会」委員の委嘱について』について、説明をした。

<事務局 教頭>

閉会宣言をした。